

1. 次の英文を和訳せよ。

In Japan the average rate of government revenue to GDP between 1990 and 2000 was 32.2 percent. This number serves as our baseline estimate for the long run overall Japanese tax rate. Government revenue as a share of GDP peaked in 1990 at 34.3 percent, just prior to a series of tax cuts designed to offset the bursting of the bubble. This implies that a Ministry of Finance policy that took Japanese tax rates back to their 1990 level would increase revenues by approximately 2 percentage points of GDP.

(Broda C. and D.E. Weinstein, 2005, Happy News from the Dismal Science: Reassessing the Japanese Fiscal Policy and Sustainability, in Takatoshi Ito, Hugh Patrick and David E. Weinstein eds., "Reviving Japan's Economy," The MIT Press, p.63)

※注：Ministry of Finance: 財務省

2. ある開放経済において、財市場の均衡は、

$$Y=C+I+G+NX$$

ただし、Y: GDP、C: 民間最終消費支出、I: 投資（固定資本形成）、
G: 政府支出、NX: 純輸出（＝輸出－輸入）

と表される。いま、消費関数が

$$C=130+0.9(Y-T)$$

ただし、T: 租税（収入）

と表され、投資関数が、

$$I=70-100r$$

ただし、r: 利子率

と表され、純輸出と GDP との関係が、

$$NX=80-0.05Y$$

と表されるとする。また、貨幣需要関数が

$$L=0.05Y-50r$$

ただし、L: 貨幣需要

と表されるとする。貨幣市場の均衡は、

$$M=L$$

ただし、M: 貨幣供給

である。このとき、下記の(1)～(4)について答えよ。

(1) IS曲線とLM曲線を数式の形で導出せよ（図示する必要はない）。

(2) いま、政府が、政府支出 G を 60 だけ行おうとし、財源を全て市中消化による公債によって賄うこととし、租税を一切課税しなかったとする。また、中央銀行は、貨幣供給を 110 だけ行ったとする。このとき、マクロ経済において実現する GDP と利子率の水準はいくらになるかを答えよ。

(3) 今度は、政府が、政府支出 G を全て租税収入 T で賄う財政運営を行ったとする。貨幣供給が 110 であるとき、政府支出 G を 60 だけ行おうと、マクロ経済において実現する GDP と利子率の水準はいくらになるかを答えよ。

(4) (3)と同じ状況で、貨幣供給を 110 のままとし、政府支出 G を 60 から 70 に 10 だけ増やすと、マクロ経済において実現する GDP は(3)のときと比べていくら増えるかを答えよ。

よ。

※注意：答案用紙には、途中の計算過程も残しておくこと（きれいに書いていなくてもよい）。正解と異なっていた場合には、計算過程の内容が重要になる。

3. 次のミクロ経済学に関する①～⑥の記述について、正しい場合は○、間違っている場合には×をつけて答えよ。また、誤っている×の記述について、その理由を簡単に答えよ。

- ① 需要の価格弾力性がゼロのとき、縦軸を価格、横軸を数量とした図において、需要曲線は水平になる。
- ② 下級財（劣等財）である財は、所得が増えると消費量が減る。
- ③ 第1財と第2財の限界代替率とは、第1財の消費を限界的に1単位減らしたときに、購入を増やすことができる第2財の量の大きさを意味する。
- ④ 独占企業が生産する財の市場において、総余剰（消費者余剰と生産者余剰の和）は、同じ財が完全競争市場で取引されたときよりも大きくなる。
- ⑤ 限界費用曲線は、通常、平均費用曲線で平均費用が最低となる点で交わる。

4. <この問題は、時間に余裕がある場合に限り解答してもよい；解答しないからといって減点にはしない>

2つの消費財（私的財）AとBがあり、それを消費することにより効用を得る消費者がいたとする。財Aの消費量を x_A 、財Bの消費量を x_B として、この消費者の効用関数が

$$U(x_A, x_B) = \sqrt{x_A x_B}$$

と表されるとする。この消費者は323の所得を持っている。いま、財Aの価格が4で、財Bの価格が1であるとする。このとき、この消費者にとって各財の最適な消費量はそれぞれ何単位か答えよ（整数でなくてよい）。ただし、この消費者は持っている所得以上には消費できないとする。

※注意：答案用紙には、途中の計算過程も残しておくこと（きれいに書いていなくてもよい）。正解と異なっていた場合には、計算過程の内容が重要になる。